

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073100473		
法人名	株式会社 ウェルフェアネット		
事業所名	グループホームさわやかテラス春日		
所在地 (電話番号)	福岡県春日市須玖南91番地	(電 話) 092-588-3307	

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡県福岡市博多区博多駅南4-2-10		
訪問調査日	平成 19年 5月 11日	評価確定日	平成 19年 6月 28日

【情報提供票より】(平成 18年 12月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造り	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(200,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	10 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大西内科クリニック、おがた小児歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人として研修に力を入れており、年間計画を立て、法人内4事業所合同で行っている。リーダー研修も含め、経験年数に応じたグループ研修も行われている。入浴・外出の時間を特に定めず、入居者の気分やリズムに合わせている他、職員が後から見守ることを繰り返し行い、行動パターンや範囲を把握し、家族の了解も得た上で、希望される入居者には、散歩・買い物も1人で自由にしていただいている。趣味の継続にも積極的で、入居前から習われていた唄の先生にホームに来ていただいたり、ダンスや習字を習いに近所の教室に通っていただいたりしている。職員は、“介護している”という印象があまり感じられない程、自然な雰囲気が入居者と接しており、“1人の人として、地域の中で普通に暮らしていただくこと”を、法人全体で大切にしていることがうかがわれる。入居者・家族を第一優先にした柔軟な対応は、職員に少なからず負担がかかってくるものと思われるが、法人代表が、年度ごとに事業計画・方針を配布する等、法人の運営・認知症ケアについての自身の考え方を職員に明確に示しており、管理者・職員の話からも、その姿勢が浸透していることが感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①緊急時対応については、法人内の医療担当職員が資料を作成し、合同会議で配布・説明を行い、系列内各ホームで伝達研修を行った他、消防署の救急救命講習の受講、協力医療機関の医師を招いての研修も予定している。②職員のストレス解消策については、2~3か月に1回位の頻度で少人数での親睦会を行うようにし、責任者のメールアドレスを伝えていつでも相談できるようにした。③非常災害対策については、年2回の避難訓練の実施のみならず、常に職員に意識してもらえよう、対応手順をスタッフルームに掲示している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員と話し合いをして行った。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	既に3回開催しており、家族代表の他、地区代表、民生委員、公民館長、包括支援センター職員、市職員等幅広い方々に参加いただいている。法人及びホームの基本姿勢、ホームの活動の概要の他、前回の外部評価の結果の報告を行い、出席者から意見をいただいている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	ほとんどの家族が、平均1回/月来訪されており、来訪時に、「個別記録」、毎月見直しをしている「生活援助計画(ケアプラン)」に目を通していただき、「確認表」に押印していただいている。遠方から来訪頻度が3か月ごと位になられる家族には、毎月電話で報告するようになっている。その他、毎月、ホーム便り(「さわやか通信」)を作成・郵送し、「家族会」も開催している。管理者・統括責任者・法人代表等、相談を受けする窓口を複数設け、家族に、相談内容に合わせて、相談先を選んでいただけるようにしており、意見をいただいた時は、「要望シート」に記録として残し、ホームの運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	外部評価の4か月前に開設した隣接の小規模多機能ホームには、開設前から近所の子供たちが放課後に遊びに来ていたことから、敷地内の駐車場・芝生(近所の小さい子供たちが安全に遊べる場所として造っている)・ホームを地域の方に利用していただいている状況にある。地域の敬老会や地区の運動会、公民館でのふれあいサロンにも、入居者に参加していただいている。ホーム行事も地域に開放する形で行っており、実際、昨年度の夏祭りには、30名ほどの方に来ていただけた。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従前より、法人としての理念、ホームの理念(家訓として掲示)を定めていたが、グループホームが地域密着型に変わったことから、法人代表が、「地域に根ざす」ことにこれまで以上に力を入れていくことを、平成19年度の法人の年度方針の中で示し、基本理念に「住み慣れた地域」を、運営方針に「地域に溶け込む介護の推進」を盛り込んだ。その旨、運営推進会議でも説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人代表が、年度ごとに事業計画・事業方針を明確に示し、職員に配布する等、法人の運営・ケアの基本的考え方等について、日頃より職員に話しており、法人全体として、同一の方針の下、職員が業務に従事していることが感じられる。日頃より、買い物・散歩を入居者に自由にしていただいたり(必要・入居者の希望に合わせて、職員が付き添うこともある)、ホーム活動も地域に開放する形で行っており、実際、昨年度の夏祭りには、30名ほどの方に来ていただいた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外部評価の4か月前に開設した隣接の小規模多機能ホームには、開設前から近所の子供たちが放課後に遊びに来ていたことから、敷地内の駐車場・芝生(近所の小さい子供たちが安全に遊べる場所として造っている)・ホームを地域の方に利用していただいている状況にある。地域の敬老会や地区の運動会、公民館でのふれあいサロンにも、入居者に参加していただいている。法人代表からは、「現在、地域の一員としての交流は行えているが、地域で認知症ケアの推進役としての役割を果たしていくことは、まだこれからの課題」との言葉が聞かれ、更なる取り組みが期待される。	○	地域の方に親しみを感じていただき、地域の一員として溶け込むという段階は既にできているため、法人代表の言葉にもあるように、次の段階として、高齢者ケア・認知症ケアの地域の拠点として、地域の方に頼りにしていただくことを目指し、「運営推進会議」での情報発信も含め、今後も取り組みを行っていくことを期待したい。既に、自然な形で子供が入居者・利用者となることができ、高齢者・認知症を体験として理解しているであろうことから、将来、その成果が現れてくると思われ、今後の楽しみである。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表は、法人の運営・認知症ケアについての自身の考え方を職員に明確に示しながら、管理者・職員と協働して、より良いホームとなるようことに取り組んでおり、サービスの向上のための自己評価・外部評価の意義を理解している。管理者・職員も理解しており、前回の外部評価の結果は職員に配布し、話し合いをして改善計画も作成した。今回の自己評価も、職員と話し合いをして行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	既に3回開催しており、法人代表が従前より公民館活動等地域活動に参加していたこともあり、家族代表の他、地区代表、民生委員、公民館長、包括支援センター職員、市職員等幅広い方々に参加いただいている。前回の外部評価の結果の報告もしており、ホームの質の向上に、運営推進会議を活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市職員に参加いただいている。従前より、法人代表が市町村と積極的に関わりをもっており、隣接の小規模多機能ホームの開設に関しても、繰り返し話し合いを行っており、市との連携は密である。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人代表が、「高齢者・障害者安心サポートネット」の理事を務めている。他、総務課長が成年後見人のボランティアを行っている。職員も、当団体の研修会等に参加しており、制度について、おおよそは理解している。特に管理者は、家族に説明することができなければいけないという考え方のもと、知識を深め、必要と思われる方には、個別に説明している。すぐに必要というわけではない方にも、制度のあることを知っていただくために、「家族会」で説明した。「家族会」を欠席された方には、資料を郵送した。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族が、平均1回/月来訪されている。家族来訪時に、「個別記録」、毎月見直しをしている「生活援助計画(ケアプラン)」に目を通していただき、「確認表」に押印していただいている。遠方で来訪頻度が3カ月ごと位になられる家族には、毎月電話で報告するようにしている。毎月、ホーム便り(「さわやか通信」)を作成・郵送している。職員の入れ替わりは少ないが、通信に、職員の紹介も載せており、金銭管理も含め、家族への報告は密に行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者一人での散歩・近所への買い物も含め、入居者本位の個別ケアに務めているため、日頃より、家族とケアについて話し合いを充分に行っている。管理者・統括責任者・法人代表等、相談をお受けする窓口を複数設けており、家族は、相談内容に合わせて、相談先を選ばれている。意見をいただいた時は、「要望シート」に記録として残り、ホームの運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣に小規模多機能ホームが開所したこともあり、最近、管理者の交替があったが、開設から2年半で退職者は3名ほど、職員の入れ替わりは少ない。管理者の交替に際しては、入居者・家族に説明をした。必要があれば、法人内異動もあるが、極力、馴染みの関係が継続されることに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたっては、性別・年齢で制限をしておらず、実際に職員の年齢層は20代～50代と幅広い。採用にあたっては、「グループホームのケアに従事したい」という意欲を重視しているとのことで、ホームで働くこと自体が、その職員の自己実現と一致している人を採用している。職員は、地域活動・自己学習を自由に行っており、ホームとしても、資格取得を積極的に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表が、権利擁護の団体の理事を努めていることもあり、日頃から、職員に対して話がされている。研修の年間計画にも、「認知症ケアの専門性」「グループホームにおけるスタッフの資質」を盛り込み、入居者本位のケアについて学習をしている。カンファレンスでも、入居者の立場にたって考える姿勢が徹底されている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、法人内4事業所で合同で行っている。年間計画を立て、計画的に行っている。経験年数に応じたグループ研修やリーダークラスの研修も行われており、職員は、段階を踏んで、知識・技術を深めていけるようになっている。外部研修受講の機会も確保されている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入っており、研修会の他、相互訪問等も行っている。法人代表が、開設前に多数のホームを訪問見学しており、その中で関係ができたホームとの交流も行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在は、特に体験入居の仕組みはとっていないが、入居前の話し合いを繰り返す中で、入居者・家族とホーム職員の互いの理解を深め、馴染んでいただいてから入居していただくようにしている。起床時間や1日の過ごし方等、入居前の環境・生活リズムを把握し、入居直後はできる限り、前の環境に近づけるようにして、無理なくホームの生活に慣れていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアの面では知識・技術を有す職員でも、裁縫・調理といった家事については、入居者の方が経験豊かであることから、味付けのコツや昔ながらの風習等について、入居者に教をいただいている。そのことが、入居者の自信や自負心につながっていると思われる。職員は、「介護している」という印象があまり感じられない程、自然な雰囲気を入居者と接しており、ホーム全体に落ち着いた自然な雰囲気が漂っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員に採用時に配布している「職員心得」に、「何事も利用者と一緒にする。許可・同意を得る」「本人・家族の希望を重視する」を明記し、常に、入居者の希望を把握し、思いに沿った暮らしの実現に努めている。実際のケアについては、入居者主体に行われているが、「介護計画」の意向欄・課題・目標への記載が少し概略的で、把握している入居者の希望が充分反映されているとはいえない。「センター方式」も導入しているが、家族もご存知ない場合も多く、生活歴の情報収集についても苦勞している状況とのこと。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族来訪時に「生活援助計画(ケアプラン)」「個別記録」を見ていただき、意見をお聞きしている。職員を3チームに分け、各チームが6名の入居者を担当し、毎月、チーム毎に話し合いを行った上で、全体のカンファレンスに諮る流れになっており、計画には、職員の気付きや意見が盛り込まれている。実際のケアは入居者のその時その時の思いを中心に据えた細やかなものであるが、計画に表現されている文言自体は、介護者からみたものとなっている。	○	(外部評価項目No.17・18) 実際のケアについては、入居者主体に行われているが、「介護計画」については、いままじの取り組みを期待したい。まずは、全職員が“入居者主体”“ポジティブプラン”がどのようなものかイメージできるようになるのが第一歩かと思われる。「センター方式」の様式に、自分自身のことを落とし込んでみたり、「介護計画」の書式を使って、自身の今後の人生プランを表現してみたりすると、“その人自身の計画”“見たらワクワクしてくる計画(ストレッチにも配慮した計画)”がどういふものなのか、実感できるかもしれない。職員同士で聞き取りしあい、どういふふうに質問したら答えやすいのかを体験しあうのも有意義と思われる。更に、課題・目標に、入居者自身の好きなこと・関心ごとを活かして、“どこで”“いつ”“どのくらい(時間・距離・頻度等の数値)”を盛り込むと、見直しの際に、目標が達成できたかどうか客観的に検討しやすくなり、次の目標設定が的確にできるようになると思われるので、更なる計画の充実に向け、取り組みを行っていくことを期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、チームで話し合いをした上でカンファレンスにかけて、全職員で話し合いをする流れになっており、話し合いの結果を踏まえ、計画の書き直しも毎月行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助・外出支援を、入居者の心身状況や生活リズム、家族の都合に合わせて、臨機応変に行っている。入院された時は、頻繁に見舞いに行っている。隣接の小規模多機能ホームと合同で夏祭りを行ったり、互いに訪問しあったりもしており、入居者の生活の拡充につながっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとして協力医療機関を確保しているが、受診・入院の医療機関は、入居者・家族の希望に沿っており、各入居者のかかりつけ医を、協力医療機関医師に伝えている。協力機関は、法人代表が、認知症に関して理解が深く、ホームとの連携がスムーズにとれる機関を慎重に検討して依頼したとすることで、協力医は、いつでもホームが連絡をとれるよう携帯番号も教えてくださる他、自身が不在の時は、他の医療機関を予め紹介して下さる等、対応してくださっている。かかりつけ医の場合も含め、受診結果はホームで把握し、家族に説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りをする旨、明確に方針を示している。重度化や終末期について、協力医療機関・家族・ホームで、繰り返し話し合いを行うようにしている。既に看取りの実績がある他、現在もターミナルケアを行っており、勤務スケジュールを特別に調整し、1名の職員が居室に付き添ってケアを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新規採用職員には、守秘義務・言葉遣い・態度について具体的に示した「職員心得」を渡し、指導をしている。正式採用の前に、1週間の試用期間を設けており、ホームの考え方や基本姿勢に沿えるか確認をしているとのことで、ホーム全体に、静かな穏やかな雰囲気が流れている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にしている。危険がなく、それを望まれる方には、散歩・買い物も1人で自由にしていただいております。安全を確保しながらも、入居者が望まれる過ごし方を尊重している。入浴・外出の時間も、特に定めているわけではなく、入居者の気分やリズムに合わせている。玄関も、正面玄関の他、勝手口、外階段からの2階の出入口等、各入居者が自身の居室からの位置関係で好まれる場所を自由に使っていただいております。各入居者が、生活歴・嗜好・好みに合わせた自由な暮らしが自然な形で継続されていることが感じられる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に参加していただきやすいようにと、敢えて台所とリビングをカウンターで区切る造りにせず、続きの構造にしたとのことで、無理にお願いすることはせず自主性に委ねているが、入居者が気分に合わせて手伝ってくださっている。1名の職員が検食も兼ねて、同じテーブルについて、必要な介助を行うようにしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に入浴日・入浴時間は決めておらず、入居者が好まれる時に入浴していただいている。入浴実施は記録に残し、入居者の希望に合わせている。清潔が保てるように気を配っている。入浴を嫌がられる方については、職員で話し合いをして言葉かけを統一し、入居者が気分よく入っていただけるようにしている。希望が重なった時等、隣接の小規模多機能ホームの浴室を活用することもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い職員も多いため、家事・生花等、入居者に力を発揮していただけない場面では、「教えてください」と声かけし、助言いただいている。入居前からの趣味の継続に努めており、ある入居者が習われていた唄の先生に来ていただき他の入居者にも教えていただいたり、近所の教室にダンスや習字を習いに行かれている方もおられる。月1回の外食・ドライブ等も行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	予め計画を立てて行う季節行事(ほぼ月1回)の他、天気やその日の気分に合わせて外出したり外食に行ったりしている。ほぼ毎日散歩に行かれる方もおられるが、止めることはせず、職員は、一緒に出たり、遅れて出てそっと見守る等、入居者の気持ちに合わせてケアを行っている。家族に了解をいただいた上で、危険のない方には近くのスーパーへの買い物や散歩は1人でしていただいているので、人員体制の関係から行動を制限することはほとんどなく、外出の機会は多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は戸締りするが、日中は、正面玄関・勝手口・外階段に続く2階の出入り口ともに、開放している。鍵をかけないこと、行動制限をしないことについては、入居にあたって家族に説明している。職員が知らないまま入居者が外出されたこともあるが、日頃より警察への協力依頼もしており、鍵をかけないケアを継続して行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力も得ながら、避難訓練を行っている。訓練に際しては、入居者の心身状況を踏まえて誘導の順番・手順も細かく記載した計画を作成し、項目ごとに実施状況をチェックする表も活用し、避難終了までの所要時間も含めて記録をつけ、毎回、評価・反省している。夜間想定訓練もしている。地域への協力依頼も行っている。先の地震の経験から、水・インスタント食品を備え付けている他、常にお湯を沸かして置いておくようにしている。		
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、夜勤者が作成している。法人内に栄養士資格を有する職員がいるため、定期的に献立(提供した食事の記録)をチェックしてもらい、助言を得ている。食事制限が必要な疾病をもたれている入居者については、主治医の指導も受けながら、適切な栄養摂取となるように個別に対応している。水分補給にも気をつけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームのために新しく建てられた建物であるが、廊下幅も広すぎず、少し入り組んだ感じの構造となっていることが、家庭的な印象を増し、また入居者にとって場所の認識に役立っているように感じられる。職員の声のトーンも落ち着いており、ホーム全体が静かな穏やかな雰囲気である。採光・風通しも良い。季節で飾りつけを変えて季節感を出しているとのことだが、理念・写真の掲示も含めて、施設的な印象にならないような工夫もされており、入居者にとって馴染み易い環境となっていると思われる。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム備え付けはクローゼットのみで、入居に際して、馴染みの物をお持ちいただくようにしている。居室に入る限りは、特に制限はしておらず、ベッド・鏡台・物入れ・仏壇等が持ち込まれている。家具の配置も、入居者の希望や生活パターンに合わせている。清潔・消臭に配慮し、居室には、必要に応じて部分的に洗うことができるジョイント式のカーペットが敷かれている。		